

CoREF 公開ワークショップ 第4回 2009年12月26日

「子どもたちは授業から何を学んでいるの？－教えることと学ぶこと－」

@福武ホール 地下2階 ラーニング・ラボ (3室全使用) time line 13:00~17:30

活動の流れ	発問・指示	形態	WN, 資料・道具	所要時間	累積時間	留意点など
1 はじめの挨拶と活動概要説明	「子どもは授業から何を学んでいるの？」そんな質問をすると、「そりゃ、先生が教えたことを学んでるんじゃないの」という答えがかえってくるでしょうか。 今回のワークショップでは、そんな自明に見える問いを軸に、 ・[問題]に回答したり ・様々な資料を読んで考えを交流したり といった活動を通して、子どもたちの学習の実態に即して授業をデザインするためのヒントをみつけていただきます。	全体	WN1	10分 13:00-13:10	10	座席は、最初一緒に来た人たちが固まって座っても大丈夫 最初は三宅先生ハンドル。積木の道具を出すとともに斉藤にチェンジ。
2 授業観への導入	「授業観を調査する問題(積木)」。問題の説明を、道具を用いて丁寧に行う。各自回答&理由。ちょっと話し合い。考えの分布を集計。	全体	WN2 ※スケールは購入済み。100g(赤)と50g(黄)の積木をねんどでつくる。	30分 (説明に5分、回答に10分、話し合いに15分) 13:10-13:40	40	話し合うグループは2人でも3人でも近場で話しやすそうな相手に
3 授業記録など3つの資料でエキスパート活動	授業記録などを読む。 ①「一般的な法則について納得するのはそう簡単ではない」ということを伝える資料＝《ものとその重さ》より、「アルコール50ccと水50ccを合わせると体積が100ccより少なくなる。そのとき重さはどうなるか？」で、これが[問題6]にもかかわらず多くの子が間違えるという事例。 ②「経験主義だけでは学習は進まない」ということを伝える資料＝《ばねと力》より、[問題1]ですら、子どもたちは実験から目にみえない背後のしくみについて洞察している(一般化を始めている)という事例。 ③ ①と②を統合するカギとなるような、認知科学の話題。協調的な概念変化のモデルを《空気と水》の問題配列を事例に説明。	グループ	WN3-1, 2, 3 メモにWN4 実験道具 ①:メスシリンダー2本(アルコール・水50ccをいれておく。アルコール100ccに赤テープ)、白書類ケースにセットして。 ②:磁石と糸つきクリップ ③:特になし	40分 (グルーピングに5分 課題読むのに10分 これ何?に25分) 13:40-14:20	80	<3人×5グループ>×3資料 符号は「質量」「ばね」「概念変化」? ★アシスタントは道具の準備を。あらかじめセットしておけるとよい
4 ジグソー活動	3つの資料からわかったことを合わせて、「3つの資料から、子どもたちの学習の実態についてどのようなことが読み取れるでしょうか。」という問いについて考えてもらう。	グループ	聞き取りメモWN5 話しあいメモWN6	40分 14:20-15:00 (各資料10分、まとめた話に10分)	120	
休憩				10分 15:00-15:10	130	適宜。活動の流れによってはプロジェクトのあとでも。
5 プロジェクト	今日学んだことを学校に帰って説明するとしたらどんなことをどんなふうに伝えますか?というポスターづくり。他のグループの発表をきいたりポスターを見たりして、気づいたこと、考えたことなどをメモするのにお使いください。	グループ	WN7 下書き用。	60分 15:10-16:10	190	グループはジグソーと同じ
6 クロス・トーク	ポスター発表 (3分×15班 + 15分) 発表は3分で、くるくるまわして、コメントしあって	全体	WN8 発表メモ	60分 16:10-17:10	250	
7 まとめ	「授業観を調査する問題(積木)」あらためて回答。	全体	WN9	10分 17:10-17:20	260	
8 最後の挨拶	授業記録、参考資料の紹介など、QAあれば。感想などを書いてもらう	全体・個人	WN10	10分 17:20-17:30	270	